

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL 5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL 090-2657-0300

すまいるたうん



汐入

第128号

平成21年

12月23日



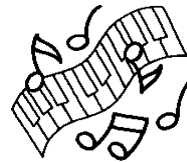
昭和の香り 流しで半世紀

中村実さん

「好きな音楽で生きてこれて幸せ」

中村実さん（南千住6丁目在住）は
エンジニアから昭和19年から24年までの
ロシア抑留生活を経て浅草で昭和25年か
ら流しのアコーディオン（日本語では

てふうきん
手風琴）で半世紀すごして
来ました。中村さんはアコー
ディオンだけでなく、11歳
から始めたバイオリンやキー
ボードにマンドリン、ギターも奏でます。



「色々な人々と知り合いになれた」

流しとは元々は江戸時代に隅田川の納涼
船の客の求めに応じて上流から下流、下
流から上流へと舟を「流し」て営業して
いたのでこの名がつけました。歌い手と
コンビを組んで、午後6時半〜11時辺り
まで浅草の盛り場を1軒1軒訪れて、当
時の流行歌をお客さんの前で披露してお
りました。また、結婚式やイベントにも
参加しました。都内では最盛期で50名近
くの人が流しで生計を立てておりました。
「カラオケでは味わえない生演奏
です」

昭和35年位以降、カラオケが普及し、そ
のうち通信カラオケを店が導入するようにな
り、流しで生計を立てる人も高齢化とな
り今は少なくなりました。

昭和35年以降、高度成長期に伴い、人間
関係が希薄になり生活を唄った「岸壁の母」
など母物を唄ったものなど日本人の心の泥
臭さが無くなってきたと中村さんは仰って
おります。

前回のすまいるたうんふれあい亭に中村
さんがいらしてお話を聞き、急遽19日に
「中村さんのアコーディオンで歌う会」を
瑞光ひろば館1階で開催致しました。

「要望のあった曲は、なんでも弾け
ないといけない」

12〜13キログラムあるアコーディオンを
背中に背負い、手書きの譜面や膨大な曲の
入った本を何冊も持って中村さんはいらして
下さいました。アコーディオンの右手側
はピアノと同じく鍵盤があり、左手側には
主にベース音や和音を奏でるボタンが多数
配置されていました。左右の手を自由自在
に動かして中村さんの軽快に奏でられる音
に惹かれ、2階で民謡をされている方達も
参加されました。

「音も外れず、びつくりしました」

中村さんは、皆さんの音程に合わせて奏
でて野崎参りや船頭小唄など17曲を歌詞を

見ながら知らない人同士が一体となり会話
も弾み、楽しいひとときがすごせました。

「懐かしかった」

参加されたオカリナ同好会の高橋さん
は、今はテレビでも流れなくなった歌を皆
さんと気持ち良く声を出して歌えて懐かし
い青春時代を思い出せたと仰っていました。
すまいるたうんふれあい亭で、音楽を通
じてお友達を作りませんか？道で会って挨拶
ができる人達を増やしましょう。

アロエの化粧水も、小林マツさん（98歳）
が作り方を教えて下さり、初参加の方には
差し上げております。また、千住製絨所の
話も近々に新聞に掲載されることになりま
した。

今年一年、色々な皆様にお世話になりま
した。また、来年もよろしくお願い致しま
す。来年もまた「中村さんのアコーディオ
ンで歌う会」を開催致します。歌集はこち
らで用意致しますので手ぶらでいらしてい
ただけたらと思います。

南千住七福神社めぐり

1月3日（日）午後1時

JR南千住駅前集合

参加費無料

お楽しみ抽選会あり

申し込み先 杉山六郎さん

携帯090(4203)6566

